

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
	水道課	工務班

事務事業名	石綿管更新事業					
総合計画 体系	施策の大綱	第5章 市民のころをむすび, 可能性を未来につなぐまち				
	施 策	施策3. 市民の暮らしを支えるライフラインの充実				
	施策の展開	(1)水の安定供給				
事業区分	投資事業	実施計画見直し区分				
事業期間	単年度繰返し (平成 年度 ~ 平成 年度)					
予算科目	会計	公営	款	項	目	
根拠法令等	水道法第5条					
事業の内容 (Plan)	事業内容	石綿セメント管の更新 (水道事業創設時に布設され現在も供用している石綿セメント管を耐震性の高いダクタイル 鋳鉄管に更新する。)				
	新規・拡充 縮小・廃止 理由					
	現 状 (課題・ニーズ)	石綿セメント配水管は, 昭和48年から昭和50年にかけて布設され, 現在, 40年以上が経過し ている中で未だ供用中である。そのため老朽化を考慮し水の安定供給を図るため, 耐震性の 高いダクタイル鋳鉄管へ布設替えする。				
	対 象 (誰・何を)	石綿セメント配水管				
	意 図・成 果 (どのような 状態にするか)	老朽化した石綿セメント管を耐震性の高いダクタイル鋳鉄管に更新し, 水の安定供給を図 る。				
	協働の 取り組み	なし	協働の 取り組み内容			

■年度別事業費計画表 (単位: 千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算	36,288						36,288
29 当初予算	48,600						48,600
30 計画(概算)	61,743						61,743
合 計	146,631						146,631

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
石綿管更新事業	0	水道課	工務班

指標データ (Do)	活動指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	事務事業の活動量を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	更新が必要な石綿セメント配水管延長	m	450	534	400		400	
指標データ (Do)	成果指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	達成度を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	更新済石綿セメント配水管延長	m	450	534	400		400	

着眼点		チェック		判断理由	
目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？	3	結びついている	3	市が経営する水道事業で使用している石綿セメント管の更新事業であり、水の安定供給という施策に直接つながるものである。
		2	検討の余地あり		
		1	見直しが必要である		
目的 妥当性	②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？	3	市が実施・支援するのが効果的・効率的な事業である	3	
		2	検討の余地あり		
		1	市が実施又は支援する必要性が低い事業である		
有効性	③目標の達成状況 ・指標の目標達成状況は順調か？	3	順調である	2	最新の資材や技術を導入することにより「成果を向上させることができないか検討する。」
		2	あまり順調ではない		
		1	順調ではない		
有効性	④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？	3	向上の余地がない	2	
		2	検討の余地あり		
		1	可能である		
効率性	⑤事業費の削減余地 ・協働の取り組みや、類似事業との統廃合や関連事業と連携する等コスト削減の余地はあるか？	3	削減余地がない	2	最新の資材や技術を導入することにより「成果を向上させることができないか検討する。」
		2	検討の余地あり		
		1	可能である		
効率性	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？	3	削減余地がない	2	
		2	検討の余地あり		
		1	可能である		
公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？	3	見直しの余地がない 該当しない	2	昨今の厳しい経営状況において、事業費を確保する観点から検討を進めていく必要がある。
		2	検討の余地あり		
		1	見直しが必要である		

■担当課による評価

改善 (Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	経年による劣化や耐震性の低さから石綿セメント管の更新は緊急性の非常に高いものであるが、事業費も莫大なものとなるため財政状況を鑑みながら計画的に更新を進めていく必要がある。
改革・改善の余地	改革・改善案(ありの場合記入)	
あり	最新の資材や技術を導入することにより成果の向上並びにコストの削減が図れないか検討を進めていく。	

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
	水道課	工務班

事務事業名	水道事業所施設整備事業					
総合計画 体系	施策の大綱	第5章 市民のこころをむすび, 可能性を未来につなぐまち				
	施 策	施策3. 市民の暮らしを支えるライフラインの充実				
	施策の展開	(1)水の安定供給				
事業区分	投資事業	実施計画見直し区分				
事業期間	単年度繰返し (平成 年度 ~ 平成 年度)					
予算科目	会計	公営	款	項	目	
根拠法令等	水道法第5条					
事業の内容 (Plan)	事業内容	水道事業所内の施設更新事業 (取水施設・浄水施設・配水施設・電気系統など)重要度の高いものから優先的に順次更新改修をしていく。				
	新規・拡充 縮小・廃止 理由					
	現 状 (課題・ニーズ)	浄水場施設は、昭和48年から使用しており、老朽化や耐震性能の不足が深刻化してきたため、重要度・緊急度の高いものから順次更新を進めている。				
	対 象 (誰・何を)	水道事業所内の水道施設				
	意 図・成 果 (どのような 状態にするか)	老朽化した水道事業所内の水道施設を改修し施設の健全化及び耐震化を図る。				
	協働の 取り組み	なし	協働の 取り組み内容			

■年度別事業費計画表 (単位：千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算	152,291			100,000			52,291
29 当初予算	170,414			100,000			70,414
30 計画(概算)	126,500			100,000			26,500
合 計	449,205			300,000			149,205

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
水道事業所施設整備事業	0	水道課	工務班

指標データ (Do)	活動指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	事務事業の活動量を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	更新が必要な施設数(箇所数割)	%	20	20	10		10	
指標データ (Do)	成果指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	達成度を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	更新が完了した施設数(箇所数割)	%	20	20	10		10	

事業の評価 (Check)	着眼点	チェック		判断理由	
	目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？	3	結びついている	3 市が経営する水道事業に係る施設の更新整備事業であり、水の安定供給という施策に直接つながるものである。
2			検討の余地あり		
1			見直しが必要である		
②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？		3	市が実施・支援するのが効果的・効率的な事業である	3	
		2	検討の余地あり		
		1	市が実施又は支援する必要性が低い事業である		
152291	④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？	3	順調である	3 最新技術の導入などにより成果の向上させることができないか検討する。	
		2	あまり順調ではない		
		1	順調ではない		
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？	3	削減余地がない		2 最新技術の導入などによりコストを削減させることができないか検討する。
		2	検討の余地あり		
		1	可能である		
公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？	3	見直しの余地がない 該当しない	2 昨今の厳しい経営状況において事業費を確保する観点から、検討を進めていく必要がある。	
		2	検討の余地あり		
		1	見直しが必要である		

■担当課による評価

改善 (Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	水の安定供給を図るうえで、老朽化した施設の更新は必要不可欠な物であり、今後も財政状況を鑑みながら緊急性の高い施設から順次更新を進めていく。
改革・改善の余地	水の 最新の資材や技術の導入などにより、成果の向上並びにコストの削減が図れないか検討を進めていく。	
あり		

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
	水道課	業務班

事務事業名		水道広報事業					
総合計画 体系		施策の大綱		第5章 市民のころをむすび, 可能性を未来につなぐまち			
		施 策		施策3. 市民の暮らしを支えるライフラインの充実			
		施策の展開		(2)水の効率的利用の促進			
事業区分		ゼロ予算事業		実施計画見直し区分			
事業期間		単年度繰返し (平成 年度 ~ 平成 年度)					
予算科目		会計	公営	款	項	目	
根拠法令等							
事業 の 内 容 (P l a n)	事業内容	水道事業の情報公開及び啓発					
	新規・拡充 縮小・廃止 理由						
	現 状 (課題・ニーズ)	紙面及びインターネットで、誰でも情報を得ることができる。					
	対 象 (誰・何を)	市民					
	意 図・成 果 (どのような 状態にするか)	水道受益者の利便性向上と情報提供及び水道の加入促進。					
	協働の 取り組み	なし	協働の 取り組み内容				

■年度別事業費計画表 (単位 : 千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算							
29 当初							
30 計画(概算)							
合 計							

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
水道広報事業		水道課	業務班

指標データ (Do)	活動指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	事務事業の活動量を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	広報掲載年間回数	回	12	12	12		12	
指標データ (Do)	成果指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	達成度を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	水道の普及率	%	79.3	79.6	80.1		80.1	

事業の評価 (Check)	着眼点	チェック		判断理由
	目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？	3	結びついている
2			検討の余地あり	
1	見直しが必要である			
②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？	3	市が実施・支援するのが効果的・効率的な事業である	3	
	2	検討の余地あり		
	1	市が実施又は支援する必要性が低い事業である		
有効性	③目標の達成状況 ・指標の目標達成状況は順調か？	3	順調である	3
		2	あまり順調ではない	
		1	順調ではない	
④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？	3	向上の余地がない	2	
	2	検討の余地あり		
	1	可能である		
効率性	⑤事業費の削減余地 ・協働の取り組みや、類似事業との統廃合や関連事業と連携する等コスト削減の余地はあるか？	3	削減余地がない	3
		2	検討の余地あり	
		1	可能である	
⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？	3	削減余地がない	3	
	2	検討の余地あり		
	1	可能である		
公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？	3	見直しの余地がない 該当しない	3
		2	検討の余地あり	
		1	見直しが必要である	

■担当課による評価

改善 (Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	市民のライフラインである水道の安心・安全性について引続き情報公開を行うことにより、水道の加入促進につなげ、普及率の向上を目指す。
	改革・改善の余地	改革・改善案(ありの場合記入)
	なし	

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
	水道課	工務班

事務事業名		漏水対策事業						
総合計画 体系		施策の大綱		第5章 市民のころをむすび, 可能性を未来につなぐまち				
		施 策		施策3. 市民の暮らしを支えるライフラインの充実				
		施策の展開		(2)水の効率的利用の促進				
事業区分		経常事業		実施計画見直し区分				
事業期間		単年度繰返し		(平成	年度	～	平成	年度)
予算科目		会計	公営	款	項	目		
根拠法令等		水道法第2条の2						
事業 の 内 容 (P l a n)	事業内容	漏水防止計画に基づく漏水調査						
	新規・拡充 縮小・廃止 理由							
	現 状 (課題・ニーズ)	漏水を早期に発見し修繕を行っていくことは、水道水の安定供給に必要不可欠なものである。						
	対 象 (誰・何を)	配水管						
	意 図・成 果 (どのような 状態にするか)	経年劣化等による配水管の漏水を発見し、修繕することにより、水の有効利用を図る。						
	協働の 取り組み	なし	協働の 取り組み内容					

■年度別事業費計画表 (単位：千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算	3,348						3,672
29 当初	3,251						3,251
30 計画(概算)	3,000						3,000
合 計	9,599						9,923

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
漏水対策事業	0	水道課	工務班

指標データ (Do)	活動指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	事務事業の活動量を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
		漏水調査管路延長	km	26	25	20		20
指標データ (Do)	成果指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	達成度を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
		有収率	%	87.0	82.7	88.0		88.0

着眼点		チェック		判断理由	
目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？	3	結びついている	3	効率的な配水のために実施している事業であり、水の効率的利用の促進とい施策にかなうものである。 市が経営する水道事業の管路を対象に調査するものである。
	②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？	2	検討の余地あり		
		1	見直しが必要である		
有効性	③目標の達成状況 ・指標の目標達成状況は順調か？	3	順調である	1	平成28年度の有収率は82.7%と前年度より0.1ポイント低下した。 費用対効果を検証し、調査対象の選定を行う。
		2	あまり順調ではない		
	1	順調ではない			
④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？	3	向上の余地がない	2	費用対効果を検証し、調査対象の選定を行う。	
	2	検討の余地あり			
	1	可能である			
効率性	⑤事業費の削減余地 ・協働の取り組みや、類似事業との統廃合や関連事業と連携する等コスト削減の余地はあるか？	3	削減余地がない	2	費用対効果を検証し、調査対象の選定を行う。
		2	検討の余地あり		
	1	可能である			
⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？	3	削減余地がない	2	費用対効果を検証し、調査対象の選定を行う。	
	2	検討の余地あり			
	1	可能である			
公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？	3	見直しの余地がない 該当しない	3	本事業に対する受益者負担見直しは、該当しない。
		2	検討の余地あり		
		1	見直しが必要である		

■担当課による評価

改善 (Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	有収率の改善には、早期発見・早期対応が重要であり、地表に現れるまでに時間がかかるものや、地表に現れにくいものもあることから、今後も計画的に漏水調査を実施していくことにより、水の効率的利用につなげていくものとする。
改革・改善の余地	改革・改善案(ありの場合記入)	
あり	有収率の改善を進めていくうえで、本施策は有効なものであるが、費用対効果を検証し、より効果的な事業規模の設定等の検討を進めていく。	